

Ⅱ. 大阪市胃がん検診（胃内視鏡検査）の画像評価実施報告について

実施日時：第 1 回 平成 30 年 1 月 25 日（木）

第 2 回 平成 30 年 8 月 30 日（木）～9 月 13 日（木）のうち 3 日

実施方法：①検査医が撮影した大阪市胃内視鏡検査の画像を提出

※新規検査医は、検査医が任意に選択した 1 症例

※継続検査医は、大阪市が指定した 2 症例

②1 画像につき、1 名の画像評価委員により画像評価を実施

③評価が良くなかった画像については、別の画像評価委員が画像評価を行う

④実施した画像評価内容を、画像評価報告書に記載

⑤取扱医療機関へ、画像評価報告書を返送

○提出医療機関、検査医について

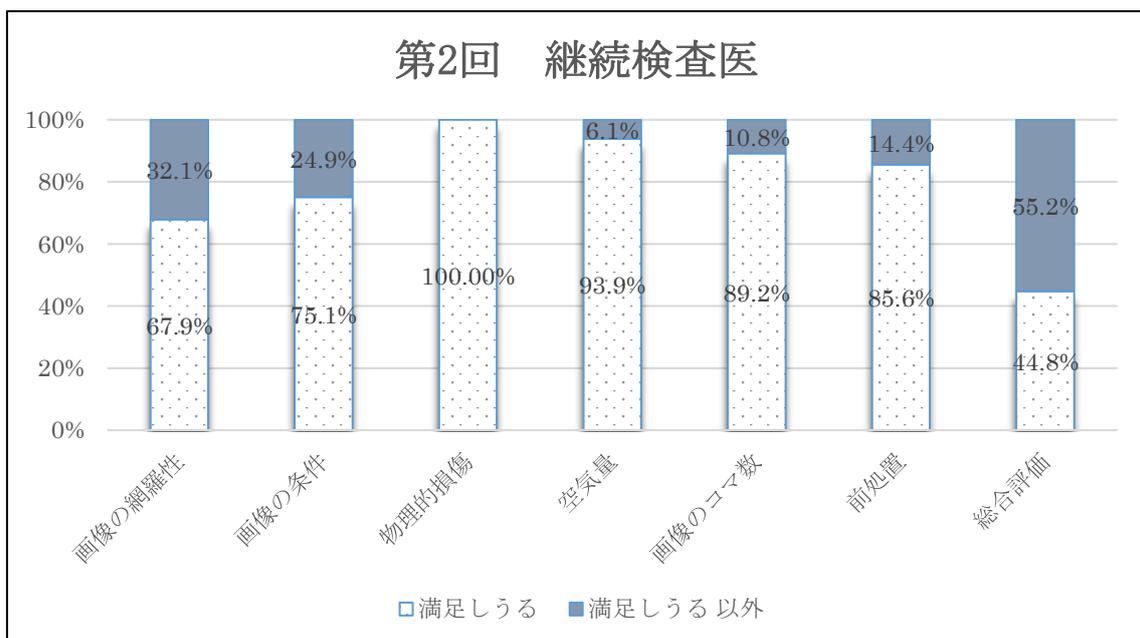
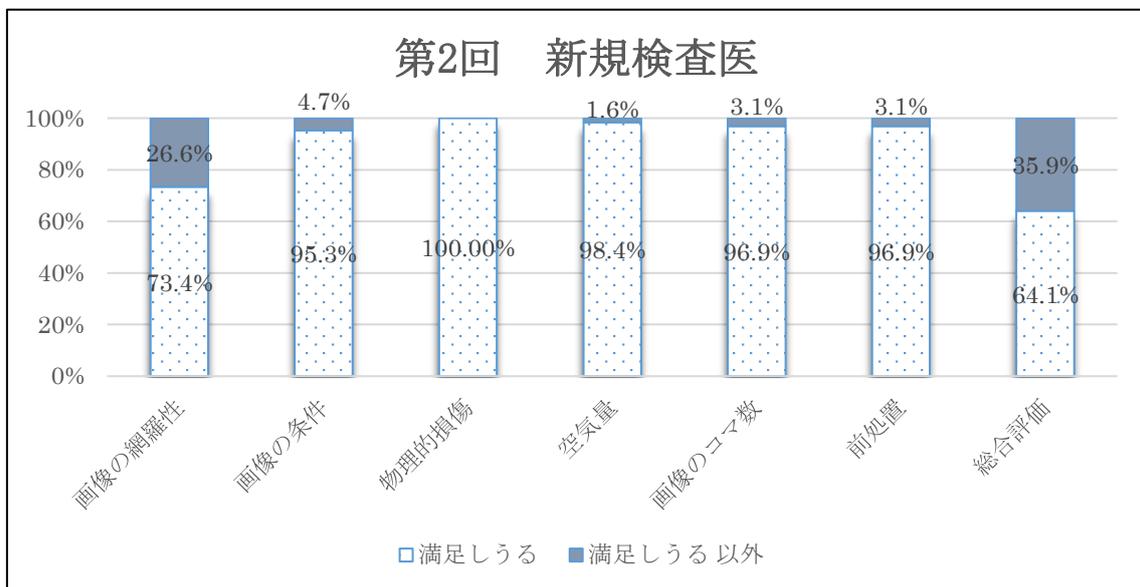
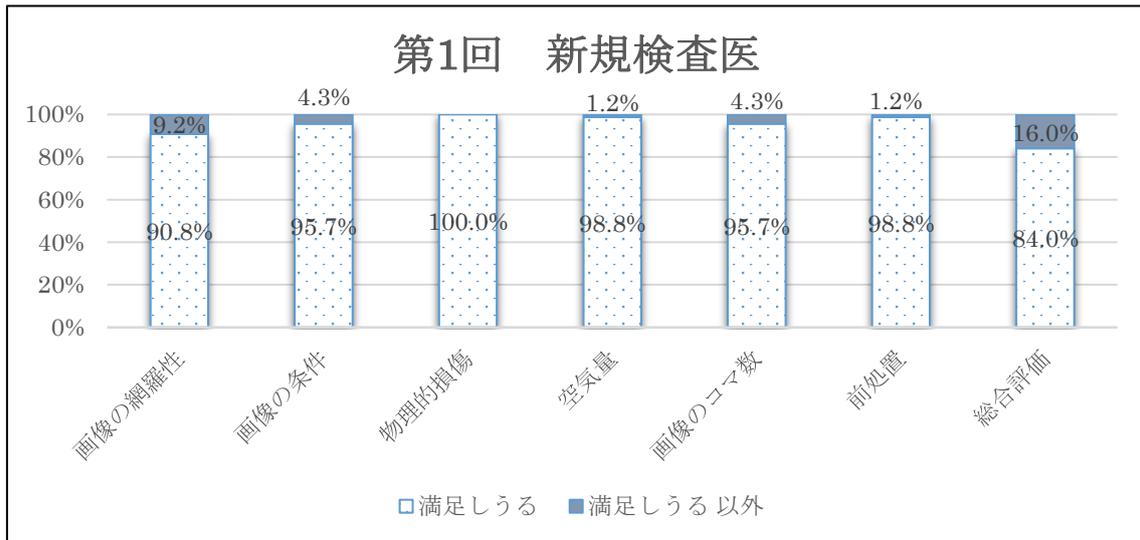
第 1 回（平成 29 年 11 月 2 日時点）

提出医療機関	対象数	97 施設
	提出	94 施設 (96.9%)
	未提出	3 施設
新規検査医	対象者数	244 名
	提出	163 名 (66.8%)

第 2 回（平成 30 年 6 月 1 日時点）

提出医療機関	対象者数	104 施設
	提出	102 施設 (98.1%)
	未提出	2 症例
新規検査医	対象者数	117 名
	提出	64 名 (54.7%)
継続検査医	提出	144 名
	提出症例数	277 症例

○大阪市胃がん検診（胃内視鏡検査）画像評価結果



○改善を要する主な箇所（満足しうる以外）

項目	第1回 新規検査医		第2回 新規検査医		第2回 継続検査医	
		件数		件数		件数
画像の網羅性	満足しうる以外	15	満足しうる以外	20	満足しうる以外	89
	噴門部 (小弯)	11	噴門部 (小弯)	9	噴門部 (小弯)	35
	胃体下部 (小弯)	3	胃体下部 (小弯)	6	胃角部 (小弯)	25
			胃体下部 (後壁)	6	胃角部 (後壁)	21
画像の条件	満足しうる以外	7	満足しうる以外	3	満足しうる以外	31
	レンズ面ののっかり (多少目立つ)	4	レンズ面ののっかり (多少目立つ)	2	ぶれ・ピントのずれ (多少目立つ)	28
	ぶれ・ピントのずれ (多少目立つ)	4	露出(アンダー気味)	1	レンズ面ののっかり (多少目立つ)	27
	露出(アンダー気味)	2			露出(アンダー気味)	27
空気量	多少少ない	2	多少少ない	2	多少少ない	16
					かなり少ない	1
画像のコマ数	多少多い	5	多少多い	2	多少多い	15
	かなり多い	2			多少少ない	10
					かなり多い	5
前処置	満足しうる以外	2	満足しうる以外	2	満足しうる以外	20
	粘膜への付着 (多少目立つ)	2	粘膜への付着 (多少目立つ)	1	粘膜への付着 (多少目立つ)	29
			食物残渣 (多少目立つ)	1	粘膜への付着 (目立つ)	4
					食物残渣 (目立つ)	4

○第1回画像評価 総評 ※抜粋

- ・画像コマ数がかかなり多くダブルチェックが煩雑になっていると思われる場合があった。
- ・噴門部直下小弯は大半が撮影されているが、遠景撮影も散見され、近景を撮影できれば確実に病変の有無の識別ができると思われる場合があった。
- ・生検を実施した場合、可能であれば生検前の病変部を生検鉗子とともに撮影した画像があればダブルチェックがしやすいと考えられた。

○第2回画像評価 総評 ※抜粋

- ・研修会でお話した大阪市標準撮影法「意図的に記録しなければならない4箇所」のうち、前回の画像評価結果と同様に噴門部小弯が記録されていない例が見受けられた。さらに今回は、胃角部あるいは体下部からの小弯後壁 J ターンも記録されていない例が散見された。

- ・前庭部前壁後壁の記録がされていない例も散見された。
- ・食道や十二指腸下降脚など、必要以上に記録されているケースも散見され、画像コマ数増加の一因と思われる。また、撮影の順序も、各施設内で統一されていない施設も有りダブルチェックが煩雑になっていると思われた。
- ・粘膜面の洗浄や、胃液の吸引が不十分なケースが散見された。前処置の重要性を再認識し、改善される必要があると思われる。
- ・ファイバーの曇り、ピント合わせなどの機器に対するメンテナンスの改善を要する画像も散見された。
- ・生検部位が不明瞭なケースがあった。生検をされた際は、生検箇所を生検鉗子とともに撮影し生検部位がわかる撮影を心がけていただきたい。